

枝廣 鎌形さん、どうもありがとうございました。最初にも申し上げたように、今回の会の目的は、一人ひとりが中期目標について考えてみることです。考えるために、自分は何を知る必要があるんだろうということを考えてみる。そういった機会にしていきたいと思っています。

おそらく、いまの鎌形さんのコンパクトで、わかりやすい、でも、そのまま聞いただけでは「？」がいっぱい浮かぶかもしれない説明を聞いていただきながら、いろいろ「あそこ、どうなっているんだろう」とか「これについて、まだわからないな」と、いろんな点があったと思います。それについてはまたあとで、皆さんから聞いていただく時間、皆さんの間で質問を考える時間を取りますので。

これから、ちょっと私のほうでいくつか考えていることをお話しして、それから研究所の方々にも補足説明していただいて、と思っていますが、私たちの話を聞きながら、疑問点とか思ったこととか、どんどんメモをしながら聞いていただければと思っています。

鎌形さんが言ってくださったことも含まれているのですが、私がこの中期目標について、あちこちでいろんな方にお話をしたり、説明をしたりしたときに、多くの方にとってわからないところ、もしくは誤解されることが多いところがあると思っています。そこを簡単にお話しますが、私の理解の不十分なところはあとで、研究所の方々にフォローしていただければと思っています。

まずは経済モデルについてです。鎌形さんも、これは1つの材料ですよという形で話をしてくださいましたが、どうしても経済モデルがある数字を持って結果を出すと、それは独り歩きしちゃうんですね。特にマスコミの方も今日は多いですが、そのあたりを、どういうふうにこれを伝えていくかということは、とても大事だと思います。

「経済モデルがこういうふうな数字を出している」と言ったら、それが絶対的なもののように受け止める人もたくさんいますが、ただ、先ほどお話があったように、新しい産業。たとえば省エネにしても、新しいエネルギーにしても、低炭素社会をつくる上でのいろいろな産業が出てくるであろう、そういったことは、いまのモデルには入っていません。それから先ほどお話があったように、1.3%かな、GDPが成長していくということを前提としていて、それがそれぞれの選択肢では少し下がりますよ、という話になっています。

でも、「GDP、マイナス %」「GDP をこれだけ押し下げる」と聞くと、「あ、大変！」と思ってしまう方が多いのも事実です。

実際には、いま、経済成長はそんなにうまくいってなくて、がくっと落ちているわけですから、実は、ここで新産業をつくったりして、浮かび上がっていくということが大事なポイントなのだと思います。

それから、どの経路（パス）を取っても、2050年には半減という目標には到達できますよというお話が先ほどありました。鎌形さんのご説明にもありましたが、でもやっぱり、早くやったほうが、特に寿命の長いものにとってはプラスが大きいですし、2020年前にやっておくことが、2020年以後の削減や国際競争力などにもプラスに効いてきます。でも、そういったことは、いまのモデルでは十分に表されていないと理解しています。ですから、そこはくみ取って、モデルが表せているところはどこなのか、それ以外でも考えるべきところはどこなのか　それを私たちのほうが判断していく必要があります。

よく日本は、限界削減費用で見てもそうですが、非常にエネルギー効率についても進んでいると言います。ですから、世界の国と比べたときに不公平を強いられているという意見もよく聞かれます。いろいろなデータがありますけれど、最近の日本のこういった面での技術が、ほかの国とずっと先を行っているかと言うと、そうでもないというデータもたくさん出てきています。このグラフもその1つです。

ですからやはり、これを1つの契機として、もっと進めること。で「日本は先へ行っているんだからいいんだ」と安心するんじゃなくて、さらに先へ進めるというのも大事な点だと思っています。

これも、鎌形さんがおっしゃった点ですが、公平性の基準のひとつである「限界削減費用」というのは、日本のこれまでの努力が反映されますから、私たちとしてはぜひ取りたい指標の1つではあります。しかし、世界全体で見たときに、これを公平性の指標にしていこうと言っているのは、日本とカナダぐらいで、ほかはそれぞれ違う指標を言っています。「GDP当たり」であったり、「一人当たり」であったり。ですから、日本が有利だからそれを言うというだけでは多分通用しない面もあるというのは、鎌形さんのポイントと同じです。

最後の資料はその1つの例ですが、限界削減費用で見たり、GDP当たりで見たときに、確かに日本は進んでいると言えます。だからといって、日本は、欧米に合わせて「できるだけやらない方向に行こうよ」と言うのか、それとも「日本もやるから、欧米ももっとやらせるように持っていこうよ」と言うのか。それは同じ公平性でも、どう使うかということだと思っています。

私のほうから簡単に補足をさせていただきました。次に、実際に非常なご苦労があったとい

うふうに聞いていますが、研究所の方々、今日は国立環境研究所の藤野さん、地球産業技術研究機構の秋元さん、日本エネルギー経済研究所の松尾さん、それぞれ実際にかかわって、このモデル分析などをされた研究者の方に来ていただいているので、コメントをお聞きします。

のちほど、皆さんからの「さらに知りたい点」にもお答えいただきますが、まず、いまの鎌形さんや私の話についてなど、補足していただける点があれば、お願いしたいと思います。どなたからでも。お願いします。